横浜市立大学 ボランティア支援室

〒236-0027　横浜市金沢区瀬戸 22-2 金沢八景キャンパス
YCU スクエア 1 階カウンター＆2 階 S27「Volounge」
Tel：045-787-2444　Fax：045-787-2093
Mail：voluntee@yokohama-cu.ac.jp

ボランティア支援室 HP　ボランティア支援室 FB　ボランティア支援室 Twitter

公立大学法人横浜市立大学ボランティア支援室２０２２年３月発行

2021

横浜市立大学 ボランティア支援室

報告書

公立大学法人横浜市立大学ボランティア支援室 2022 年 3 月発行

2021年度ボランティア支援室の活動

今後も続く 新型コロナウイルスとの共存の道

2020年度に引き続き、学生の活動は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出に大きく左右された1年でした。しかし前年の経験から、活動を完全に止めてしまうことによるデメリット(友人ができず孤立感を高めてしまう、不安感が増大など)を少しでもなくせるよう、また、コロナ禍だからこそ地域には支援を必要としている方々がいるという現実から目をそらすことのないよう、ボランティア活動に関して下記のガイドラインを作り、基本的には「学生の自主的な活動を止めない」方針で進めました。その結果、対面活動である Volunch によるボラツアーも２回実施できました。地域の皆さまのご協力に感謝いたします。

- ●宿泊、飲食を伴うボランティア活動は控えること。
- ●神奈川県外でのボランティア活動は控えること。
- ●活動については、団体の定める感染症防止対策および注意事項に沿って行うこと。

【緊急事態宣言発出時は以下を追加】

- ●活動回数を「週２回３時間まで」に制限すること。

一方で、学生からの相談をはじめ、新歓(はるボラ)やボランティア実践講座など、多くの活動はオンラインとなりました。また、準備していたものの中止となったプログラムもいくつもあり、学生の「どうせダメだろう」というあきらめの気持ちや、モチベーションの低下につながっている現実も感じています。コロナとの共存が必須のこれからの時代、皆があきらめずにすむ方法や仕組みを考えながら、新たな活動の形態を探り続けることが大きな課題となっています。

食の支援」の課題は大量に出る段ボールの山！食品ロス問題とともに、毎回処分に苦労しており、考えさせられる。

■生活が厳しい学生のための「食の支援」活動

新型コロナウイルスの感染拡大は、授業はもとより学生生活全般に大きな影響をもたらしています。特に顕著だったのは、アルバイトの減少による学生の生活苦です。学生支援課学生担当に所属するボランティア支援室では 2021 年度、この課題に継続的に取組み、計６回の「食の支援」を実施し、延べ 923人の学生に支援を届けることができました。

取組みをとおして地域の団体や企業ともつながり、食の支援を受けるだけでなく、学生の力を地域に提供できるよう、SDGs 目標12「つくる責任・つかう責任」の解決も目指す「循環型 食の協働プロジェクト(食のサイクル活動)」を進めています。

■コロナ禍だからこそできた活動と支援

「食の支援」とともに、新型コロナウイルス感染拡大下の今だから特に必要とされた活動が、病院ボランティアを考える会による「折り紙プロジェクト」や、学生団体 one by ONE による「ベッドサイド家庭教師活動」です。2021 年度は市内唯一の病院のある大学による活動として、どちらも医学部生だけでなく、学部・学年を越えた学生に広がり、成果を挙げることができました。

病院ボランティアを考える会は、2020年度にボランティア支援室が横浜市立大学附属市民総合医療センターから相談を受けたことから、院内ボランティアに興味・関心のある学生に呼びかけて立ち上がった団体です。病院内でのボランテイアを最終目標にしていますが、2021年度はコロナ禍でもできる「折り紙プロジェクト」に取組みました。

one by ONE のベッドサイド家庭教師プロジェクトも、メンバーによる精力的な声掛けで支援を希望する病院も 5 院に増え、「こういった活動を全国に広げたい」という志を力に、他大学への連携アプローチを行っています。2022 年度は初の市大生による NPO 法人の立ち上げを目指しています。

2021 年度は、例年(コロナ禍以前に)取組んできた地域に出ていくボランティア活動が減った分、いわゆる中間支援としてのコーディネーション業務とはまた違った、本学独自の課題解決に向けた活動ができました。2022 年度以降も、地域と学内と両方に目を向けながら、学生とともに新たな課題に取組んでいく必要があると感じます。地域の皆さまには、今後ともご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。(コーディネーター 柳本 薫)

２０２１年度のボランティア支援実績

◆学生のボランティア登録数・派遣数・ボランティア依頼数実績

2022年3月24日現在

年　　度	新規登録学生数	派遣学生数	ボランティア依頼数
2015 年度計	164 名	349 名	181 件
2016 年度計	259 名	235 名	140 件
2017 年度計	327 名	443 名	287 件
2018 年度計	363 名	490 名	271 件
2019 年度計	460 名	572 名	238 件
2020 年度計	223 名	154 名	98 件
2021 年度計	396 名	304 名	141 件
累　　計	2,192 名	2,547 名	1,356 件

※ボランティア支援室が開設した 2015 年 1 月 15 日～ 3 月分は 2015 年度計に計上
※2015 年度～ 2020 年度卒業生 914 名含む

◆2021 年度 学生のボランティア参加活動例(抜粋)

カテゴリー	活動名	依頼	形態	活動日	参加学生数
1. まちづくり・イベント支援	子ども・若者の居場所。 地域の情報を知る、伝える。ボランティア	公益財団法人よこはまユース 横浜市青少年育成センター	継続	2021年 5 月 30 日～ 毎月 1 回程度	3 名
2-1. 学習支援	カフェで寺子屋＜学び支援＞	特定非営利活動法人 Cafe de 寺子屋	継続	週に 1 回程度	3 名
2-1. 学習支援	寄り添い型生活支援ボランティア かもん未来塾	公益財団法人よこはまユース	継続	週に 1 回程度	4 名
2-1. 学習支援	複合的課題を抱える小中高校生の学習支援など	NPO法人教育支援協会南関東	継続	週に 2 回以上	5 名
2-1. 学習支援	学習支援・居場所づくり 「中原"わくわく"学習会」川崎市委託事業	特定非営利活動法人 キーパーソン 21	継続	週に 1 回程度	2 名
2-1. 学習支援	保土ケ谷区寄り添い型学習支援 はばたき教室・つばさの会	NPO 法人　リロード	継続	週に 1 回程度	2 名
2-2. 子ども・青少年支援	小学生と関わる「出張型体験プログラム」	公益財団よこはまユース法人企画課	継続	4月～5月 /2 ～3 回程度	4 名
3. 障害児・者支援	パーキンソン病の方の為の球技、 エクササイズ体験＆練習会【PDFan】	Team8R	単発	5月9日	1 名
4. 高齢者・健康に関する活動	フードドライブ品の仕分け等ボランティア募集中	公益社団法人 フードバンクかながわ	単発	平日の都合の良い日時	18 名
4. 高齢者・健康に関する活動	「食の支援」ボランティア	ボランティア支援室	単発	「食の支援」の前日・当日	14 名
6. 安全・防災・被災地支援	東日本大震災から学ぶ(仮称) トークセッション イベント実行委員	公益財団法人よこはまユース	継続	5月29日から毎月1回程度	3 名
7. 文化・芸術・スポーツ	第 2 回 金沢区朗読公演会サポーター	金沢区朗読公演会 実行委員会	単発	6 月 19 日(土)	4 名
7. 文化・芸術・スポーツ	2021 ワールドトライアスロンシリーズ横浜大会	世界トライアスロンシリーズ 横浜大会組織委員会	単発	5 月 16 日(日)	8 名
8. 文化・芸術・スポーツ	文化的地域資産である旧川合玉堂別邸の保全・活用	NPO 法人　旧川合玉堂別邸 及び園庭緑地運営委員会	継続	毎月 1 回程度	2 名
8. 国際交流・多文化共生	「外国にルーツがある子ども」たちの学習支援	わたぼうし教室横浜	継続	週に 1 回程度	10 名
9. 国際交流・多文化共生	留学生と話そう！オンライン・ランチ交流会 / 留学生フォローサポート	ヨコハマカナガワ留学生 就職促進プログラム	週に1回 程度	毎月 1 回程度	13 名
9. 国際交流・多文化共生	留学生対象日本語授業のボランティア(前期・後期)	横浜市立大学鈴木彩乃特任准教授	継続	4月～ 7 月、9 月～1月	32 名
10. ピアサポート	教養ゼミ・基礎ゼミオンライングループワークでの サポート・ファシリテーター	横浜市立大学	継続	5月11日から週に1回程度	16 名

◆キャンパスタウン金沢サポート補助金

2021 年度は本学から 2 団体が活動！

横浜市立大学と関東学院大学、金沢区が連携した"大学の活力を生かしたまちづくり「キャンパスタウン金沢」" の横浜市立大学の事務局を、ボランティア支援室が担っています。2021年度は右の2団体が、金沢区に活動補助金を申請し採択されました。

◎2021年度採択団体

齋藤ゼミ	金沢区瀬戸の空き家をまちづくりの学校へ
三輪・中西ゼミ	横浜金沢シーサイド魅力発信プロジェクト

ボランティア支援室が進める

循環型 食の協働プロジェクト（食のサイクル活動）

2021 年度ボランティア支援室では、生活が厳しい学生に向けて継続的な食の支援活動に取組みました(P.5 参照)。この活動をとおして、公益社団法人フードバンクかながわと連携する中で見えてきたのが、フードロス問題です。SDGsの目標12「つくる責任つかう責任」でも「2030 年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる」と書かれており、私たちが真剣に取組まなければいけない課題です。

そこでボランティア支援室では、食の支援活動を「循環型 食の協働プロジェクト（食のサイクル活動）」の中に位置づけ、上記のようなモデル図を作りました。「食の支援」及び「ロス品の配付」と、「学生による仕分け等のボランティア活動」、この二つを回していくことを大きな目標に掲げ、学生団体や地域の団体にも呼びかけて、協働プロジェクトとして進めています。

循環型 食の協働プロジェクト 継続的な食の支援活動

学生支援課学生担当に所属するボランティア支援室では、地域の団体と協働し、新型コロナウイルス感染拡大による、生活費を賄うアルバイト収入の減少や、保護者の経済状況の悪化により必要な仕送りが得られないなど、厳しい生活を送っている本学の学生を対象に、食品を届ける「食の支援活動」を継続的に実施しました。

食品を届ける「食の支援活動」を継続的に実施

※「新型コロナウイルス緊急対策基金」/ 新型コロナウイルス感染症患者の治療にあたる本学附属 2 病院や、学生への経済的支援のため設置した基金。皆さまからのご寄附の総額は 2022 年 2 月末時点で約 8,400 万円に達しています。

実施日 / 計 6 回、7 月 8 日（木）、8 月 5 日（木）、9 月 24 日（金）、11 月 9 日（火）、12 月 22 日（水）、2022 年 2 月 22 日（火）
場　所 / YCU スクエア 1 階ボランティア支援室掲示板前、YCU スクエア 2 階 Y201、4 階 Y401、ピオニーホールなど

第 1 回「食の支援」を実施するまでの間、公益社団法人フードバンクかながわ、社会福祉法人横浜市金沢区社会福祉協議会と話し合いを重ね、実施方法を「条件に合う学生の事前登録制」「セルフ方式」としました。登録の対象者は、自宅外通学やひとり親世帯など、現在、保護者からの支援が十分に受けられない状態であることや、アルバイト等の減収により、生活費を切り詰めている状態であることとなっています。

毎回アンケートをとって、食品だけでなく生活用品も含めて学生のニーズに合うモノを届けられるように検討を重ね、第 6 回の終了時には、7 つの団体や地域の方々からのご支援をいただくことができました。また、「新型コロナウイルス緊急対策基金(※)」を利用しました。皆さまのご協力のおかげで、全 6 回の「食の支援」によって、延べ 923 名という多くの学生に支援を届けることができました。この場を借りて、改めて感謝申し上げます。

そして、この活動が「循環型 食の協働プロジェクト（食のサイクル活動）」の一環でもあることから「食の支援を受け取ることはフードロス削減の解決につながる」ということも周知しながら、支援を受ける学生がネガティブな気持ちを持つことがないように伝えています。

循環型 食の協働プロジェクト フードドライブ活動

「循環型 食の協働プロジェクト（食のサイクル活動）」では、学生団体によるフードドライブ活動や、「食の支援」前日の搬入時のお手伝いなど、多くの学生が関わってくれました。

学生団体の活動 TFT 市大支部
◆学内フードドライブ活動

実施日 /10 月 25 日（月）～28 日（木）
場　所 / YCU スクエア 1 階
　　ボランティア支援室カウンター前
参加者 /TFT7 名

Table for Two 横浜市立大学支部（TFT）は「食」をテーマに、シーガル食堂でのTFTメニュー導入やおにぎりアクション等を通じて開発途上国の子どもたちへの食支援に貢献している学生団体です。厳しい生活を送る、YCU の学生や地域の方々へも支援したいと考え、活動に取組みました。学生、教職員に呼びかけて食品を集め、集まった食品はフードバンクかながわに寄附しました。

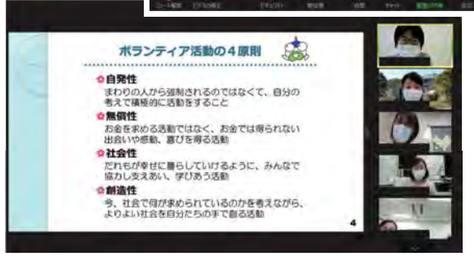
Volunchの活動 食の支援グループ
◆金沢八景駅前フードドライブ活動

実施日 /12 月 19 日（日）、26 日（日）
場　所 / 金沢八景駅高架下
参加者 /Volunch6 名

行政と関係各所への申請手続きや、事前のチラシ配りなど大変なところもありましたが、グループメンバーで協力し合って、食品ロスに関するオリジナリティのあるプログラムが作れ、実施できたことは良い経験になりました。旗や呼びかけでも工夫し、視覚的にも聴覚的にもアピールできるようにしたので、思っていたよりチラシをもらってくれる方が多いと感じました。何より、実際に食品を持ってきてくださった方がいて良かったです。（Volunch2年 加藤すみれ）

ボランティア支援 Volunteer オンライン実践講座

2016 年から毎年継続してきた、座学・実践・振り返りの 3 ステップによるボランティア初心者向けプログラム・実践講座ですが、2020 年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止となりました。2021 年度はオンラインのプログラムに変更して、Step1 の座学と Step2 を実施しました。



実施日 /Step1 6 月 15 日 (火)、Step2 は Step1のあと随時
場　所 /Zoom
参加者 / 関東学院大学 9 名、横浜市立大学 21 名、
金沢区内ケアプラザコーディネーター 8 名

社会福祉法人横浜市金沢区社会福祉協議会、関東学院大学、横浜市立大学の共催で、ボランティア初心者には少しハードルの高い、福祉系のボランティアへの参加を促すのが目的です。

Step1の座学では、地域ケアプラザの紹介や先輩による体験談を聞いたあとグループに分かれ、地域ケアプラザのコーディネーターが、学生の不安や疑問の解決に対応しました。

Step2 の実践プログラムは、新型コロナウイルスの感染拡大によって中止になった活動も多く、福祉系ボランティアの難しさも感じました。

ボランティア支援
◆東京2020オリンピック・パラリンピック ボランティア＆有償スタッフ交流会

実施日 /10月16日(土)、19日(火)、22 日(金)
場　所 / Zoom
参加者 / 大会ボランティア・有償スタッフ 8 名参加

1 年延期された東京 2020 オリンピック・パラリンピックは無観客開催となりましたが、大会ボランティアや都市ボランティア・有償スタッフとして、参加した学生に呼びかけ、オンラインの交流会を開催しました。

ボランティア支援
◆ヨコイチ・トークルーム「ゆるとーく」

実施日 /6 月 29 日 (火)、30 日 (水)、「免許・アルバイト」7 名
11月14日(日)、16日(火)、「ゼミ」/17名
12月9日(木)、12月19日(日)、26日(日)「就活」/14名
場　所 /Zoom
参加者 / 学生サポーター10名

2020年度、すべてオンラインとなった新入生が、友人や先輩とのふれあいの機会もなく、親密な関係が構築しづらい状況にあったことから開設した「ヨコイチ・トークルーム」。2021 年度は対象を 1・2 年生に広げ、1対1とは別に学生サポーターの先輩と一緒に、テーマを決めて雑談風におしゃべりをする「ゆるトーク」という新たな企画にも取組みました。

ボランティア支援 学生団体の支援 Volunteer Support for Student Groups

ボランティア支援室では、地域貢献活動に取組むさまざまな学生団体を支援しています。
活動を開始して 2 年目までのプロジェクトには、「YCU ボランティア・スタートアップ補助金」を交付して、活動費の支援もしています。

病院ボランティアを考える会「折り紙プロジェクト」

「横浜市大生がコロナ禍中の病院のためにできることは？」を課題に2020年末に開始した折り紙プロジェクトは、2021年度、学部・学年を越えて 25 人で活動しました。手作りした折り方説明書と折り紙を袋に入れて折り紙キットにして、横浜市立大学附属市民総合医療センターの各病棟デイルームに設置しました。患者さんには楽しく作品を折って回収箱に入れていただき、回収後1枚1枚写真を撮ってフォトモザイクアートを完成させました。遠くから見るとメンバーで考えたデザインが、近くで見ると患者さんの折り紙作品の写真が確認できます。

完成したモザイクアート

折り紙キットの搬入や作品回収には病院スタッフのご協力をいただき、この企画を進めることができました。アンケートでは「制作を楽しめ、気晴らしになった」という声をたくさんいただいた一方、折り方説明書がわかりづらいとの声もあり、事前に説明書を元に試作し改良を重ねる必要がありました。
（医学部医学科4年 山中 百合）

◆YCU ボランティア・スタートアップ補助金

ボランティア支援室では、2020 年度より学生団体のボランティアや社会・地域貢献活動のきっかけづくりとして「YCU ボランティア・スタートアップ補助金」を支給しています。社会課題に取組むことを通して、学生の自主自律の精神を育成します。2021年度は、前年に引き続き活動 2 年目となる下記のプロジェクトの申請があり、交付しました。

◎病院ボランティアを考える会「折り紙プロジェクト」
◎one by ONE「オンライン家庭教師及び小児病棟向けイベント企画」

学生団体の支援
◆one by ONE「オンライン家庭教師及び小児病棟向けイベント企画」

one by ONE は「二重学籍問題により院内学級に通うことのできない子どもや、受験を控えた小中高生に教育支援を行い、また入院中の子どもたちへ楽しい時間を提供したい」というミッションを掲げ、入院中の子どもたちに対しオンライン家庭教師と、楽しい体験ができるイベント企画を行っています。

2021年度は、支援対象となる病院への働きかけを行って5つの病院で実施できるようになりました。それに伴い、一般学生からのボランティアを募集して担い手を増やすとともに、他大学に声をかけて、この取組を全国的に広げる活動を続けています。

学生団体の支援
◆医学部 YDC 子どもたちと対面で“今ならでは”“医学生ならでは”の授業を実施

実施日：8月6日(金)
場　所：G-kidz アフタースクール
（学校法人 GODAI/ 横浜市都筑区 センター南）
参加者：G-kidzの子どもたち38名、YDCメンバー25名

2011年から市内の小中学校で医療教育の訪問授業を続けている医学部学生団体YDC。2021年度は何とか授業を実施したいと皆で訪問先を開拓し、折しも神奈川県は8月2日（月）から第4回緊急事態宣言に入ったタイミングでしたが、徹底した感染対策を行い、2年ぶりに授業を実施しました。

横浜市立大学附属病院で学生が撮影した「コロナ禍での医療従事者の闘い」の動画上映では、子どもたちにリアルな医療現場の様子を伝えることができました。後半の体験の時間には、「AED」「救急車の呼び方」「熱中症」の3つのテーマで子どもたちに実際に体験してもらい、子どもも大学生もお互いにとって充実した時間となりました。

Volunch の活動 5グループの活動

Volunteer Support Office Activities of 5 Groups

2021年度 Volunchの活動振り返り

2021年度、Volunchでは学習支援（zoom による自習室の開催）、国際交流（国際支援活動をされている方による講演会など）、子ども食堂（子ども食堂の見学・お手伝い）、食料支援（駅前フードドライブなど）、スポーツ（マラソン大会のサポートなど）の５グループに分かれて活動しました。昨年度よりは対面活動の機会が増えたものの、依然新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、感染者が増加した時期には中止になる活動もありました。そのような状況でも、どのようなボランティアができるのかを考え、試行錯誤しながら活動できた1年でした。来年度も新型コロナウイルスは活動に影響すると予想されますが、コロナ禍だからこそ必要とされていることは何かを考えながら活動すること、さらに、アフターコロナを見据えた活動も行っていきたいと思います。（Volunch2 年 加藤すみれ）

Volunchの活動 子ども食堂グループ

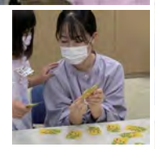
「子ども食堂」グループは、各団体の活動が中止になったことや、再開後もボランティア支援室のガイドラインにより飲食を伴う活動を禁止していたため、見学会と農園作業に参加しました。

Volunchの活動
◆子ども食堂見学会「みちくさ CC」「ココ食堂」

実施日 / みちくさ CC:6 月 22 日（火）、7 月 27 日（火）、
ココ食堂 :8 月 5 日（木）
場　所 / みちくさ CC、ココ食堂
参加者 / みちくさ CC: 一般学生 1 名、Volunch5 名、
ココ食堂 : 一般学生 1 名、Volunch2 名

2021 年、金沢区内にある 11 の子ども食堂は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて 6 団体が活動中止、残りの 5 団体も「まん延防止等重点措置」及び「緊急事態宣言」の発出中はボランティアの募集を中止していたため、“見学”という形で参加しました。当日は子どもたちと一緒に、お弁当作りやカードゲームで遊ぶなど、楽しく過ごすことができました。

子ども食堂に行って子どもたちとコミュニケーション



食べ物をつくるお手伝い

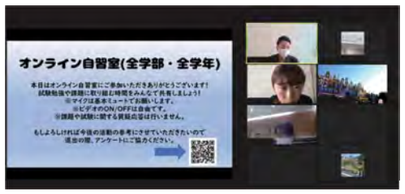
Volunchの活動
◆「金沢子ども食堂すくすく」農園作業

実施日 /2022 年 2 月 27 日（日）～、3 月中週 1 回程度
場　所 / すくすく農園（横浜市戸塚区原宿）
参加者 / 一般学生 3 名、Volunch 2 名

金沢子ども食堂すくすくでは、2022 年の 2 月から1700㎡の農園を借りて畑作りを開始しました。4 月からは子どもたちと一緒に野菜を植えて育て、収穫した野菜は、子ども食堂すくすくで提供する予定です。子ども食堂の開設時間だけでなく、それにつながる活動で子どもたちの居場所づくりを進めており、Volunch 子ども食堂グループもお手伝いをしています。

Volunchの活動 学習支援グループ

「学習支援」グループは、試験前の勉強中に学生の孤立感を解消するため、オンラインでつながりながら自習ができる「オンライン自習室」を実施しました。



Volunchの活動
◆理学部オンライン自習室・オンライン自習室

実施日 / 理学部オンライン自習室 5 月 27 日（木）、オンライン自習室 7 月 15 日（木）
場　所 /Zoom
参加者 / 一般学生 3 名、Volunch 6 名

Volunchの活動 国際交流グループ

「国際交流」グループは、2021年度対面の活動は実施できず、オンラインの講演会を企画・開催しました。

Volunchの活動
◆「特定非営利活動法人国際連合世界食糧計画 WFP協会」瀬上さんによる講演会

世界の飢餓と国連WFP

実施日 /8 月 7 日（土）
場　所 /Zoom
参加者 / 一般学生 27 名、Volunch 7 名

特定非営利活動法人国際連合世界食糧計画 WFP 協会（以下 WFP）の瀬上さんに、WFP の活動目的や視察した国々での食糧難事情などの体験を講演していただきました。グループディスカッションでは Volunch メンバーがファシリテーターとして入り、「食品ロス削減と飢餓ゼロをつなげるためにどんな具体的なアクションができるだろうか？」をテーマに話し合いました。

Volunchの活動
◆「トレボル NIHONGO 教室」西さんによる講演会

外国にルーツを持つ子どもたちを支える活動の現状と課題

実施日 /2022 年 3 月 20 日（日）
場　所 /Zoom
参加者 / 一般学生 13 名、Volunch 5 名

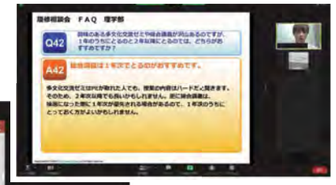
日本語が原因で学習が困難な子どもたちは多く、学習支援のニーズは高まっています。2019 年に「トレボル NIHONGO 教室」を立ち上げた本学卒業生、西涼光さん（2012 年卒）に、外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援活動、組織運営についての現状や解決方法について学びました。

Volunchの活動 その他の活動

Volunch 全体の活動としては、2020 年度に続き前期と後期に履修登録に向けた新入生のためのオンライン履修相談会、フェリス女学院大学ボランティアセンター学生スタッフとのオンライン交流会を実施しました。

Volunchの活動
◆オンライン履修相談会（学部別全体説明会＆個別相談会）

実施日 / 前期全体説明会 4 月 6 日（火）、
前期個別相談会 4 月 12 日～20 日（火）、
後期個別相談会 9 月 30 日（木）～10 月 7 日（木）
場　所 /Zoom
参加者 / 前期全体説明会 : 一般学生 117 名、Volunch 13 名
前期個別相談会 : 相談 41 件
後期個別相談会 : 相談 20 件



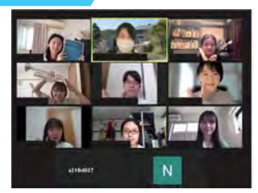
※前期は医学部以外、後期は医学部とデータサイエンス学部以外の学部で実施。

前期履修相談会の全体説明会では、昨年の履修相談会の資料を参考にし、新入生がどのような説明を聞きたいのか意識しながら準備しました。また、より個別的な質問を受付ける目的で、Zoom 相談とメール相談も実施しました。「時間割を作ったけれど、これで合っているのか不安」「学校生活でわからないことがある」などといった新入生の個別の悩みに対し、自分たちの経験も話しつつ、同じ学生として新入生の気持ちに寄り添った回答作成、迅速な返信・対応を心掛けました。

昨年に続くコロナ禍で、誰かに相談できる機会は減っています。終了後のアンケートでは「不安が解消して安心した」という声が多く、個別相談ならではの良さを生かせたのではないでしょうか。（Volunch 3 年 武田 颯斗、2 年 屋嘉比 夏己、浦田 莉里花）

Volunchの活動
◆フェリス女学院大学ボランティアセンター学生スタッフとの交流会

実施日 /2022 年 3 月 24 日（木）
場　所 /Zoom
参加者 /フェリス女学院大学ボランティアセンター
学生スタッフ 5 名、Volunch 3 名



フェリス女学院大学ボランティアセンターとの交流会は、各校主催でワークショップを行いました。フェリス女学院大学は、メンバーそれぞれが楽器を演奏し、コンサートのような心地よい時間でした。Volunch は「コロナ禍のボランティア」をテーマにグループで話し合いました。

Voluncの活動 スポーツ支援グループ

「スポーツ支援」グループは、2021年度「第3回横浜あおぞらリレーマラソンin赤レンガ」ボラツアー、障害者スポーツ支援活動に取組みました。

コロナ禍でのイベントボランティアの課題

ボラツアー

◆「第3回横浜あおぞらリレーマラソンin赤レンガ」ボラツアー

実施日 /6 月 13 日（日）
場　所 / 赤レンガパーク特設会場
参加者 / 一般学生 14 名、Volunch14 名

新型コロナウイルス感染拡大の影響で人と関わる機会が作れないなか、今回のボラツアーは、感染防止対策として午前と午後に分散したうえで、会場やコースの設営、バトン等の準備など運営に関わる様々なお手伝いをしました。制約もありましたが、一方で「人と触れ合うボランティアがしたい」という市大生から多くの応募があり、熱意を感じました。ランナーが交代する毎のバトンのアルコール消毒や検温・体調チェックなど、コロナ禍でも「参加者に安全に楽しんでもらいたい」という主催者の方々の思いから、多くの人が協力して感染防止対策を行い、このイベントに携わっていることを感じました。

午前中は受付でスムーズな対応ができ、皆で円滑に活動を進めることができました。午後には受付が終了したため、アナウンスや会場案内、ゴールテープ係など、ランナーと触れ合う場面も多くありました。

参加した学生は、リレーの参加者が頑張って走る姿やゴールした後の笑顔、リレーのチームメンバー同士でお互いを称え合う姿を見て、ボランティアの楽しさを感じることができたと思います。また、なかなか外出できず自粛生活をしていた我々も、学生同士や多くの人々とつながる機会をつくれたことも良かったです。（Volunch 3年　鬼沢 史弥）

Voluncの活動

◆障害者スポーツ支援活動

実施日 / トランポリン：2022年1月13日（木）、27日（木）、卓球：2月2日（水）
場　所 / 神奈川県立スポーツセンター アリーナ
参加者 / トランポリン：Volunch 4名、卓球：Volunch 2名

神奈川県障害者スポーツ教室（トランポリン・卓球）のサポートスタッフボランティアに参加しました。活動は受付や球拾い、子どもたちへのお声がけなど、教室の流れに合わせた一連のお手伝いです。参加者と直接触れ合う機会が多く、最初は接し方に戸惑う場面もありましたが、幅広い世代の方が、障害があっても楽しみながら体を動かす姿を見て、コロナ禍で活動が制限されるなか、スポーツがもたらす力を実感する良い経験となりました。

スポーツはコミュニケーション手段として人と人をつなぎ、皆がフラットな気持ちで楽しめることが分かりました。また、今回はボランティアを探すところから経験しましたが、大学生の私たちの参加を歓迎してくれる温かい雰囲気を感じました。
（Volunch3 年　足立 萌黄）

Voluncの活動 食の支援グループ

「食の支援」グループは、2021年度「公益社団法人フードバンクかながわ」ボラツアー、金沢八景駅前フードドライブ活動、過剰除去啓発活動などに取組みました。

食品を受け取る相手を想ったボランティア活動

ボラツアー

◆「公益社団法人フードバンクかながわ」ボラツアー

実施日 /8月23日（月）、24日（火）
場　所 / 公益社団法人フードバンクかながわ
参加者 /23 日：一般学生 3 名、Volunch3 名、24 日：一般学生 5 名、Volunch3 名

フードバンクとは、消費されるには十分安全にも関わらず廃棄されてしまう食料を個人や団体・企業から引き取り、支援を必要としている人々に配分する活動をしている団体です。オンラインの事前学習では、公益社団法人フードバンクかながわ事務局長の藤田さんに、日本の食品ロスの多さと深刻な貧困の現状をうかがいました。

現在コロナ禍でのイベント中止等で増える寄贈と、減給やシフトの削減等により増える需要に対応しているスタッフの方々の活動の一部を担うため、ボラツアーを企画しました。

当日は、寄附された食料の賞味期限等の点検作業と分類ごとの仕分け作業、賞味期限ごとに 1 か月単位で区切られた棚への配架作業をしました。集められた食品を無駄なく効率よく必要としている方々へ届けるためです。

参加した学生からは、「主食だけでなく、多くの様々な食品が集まっていることに驚いた」「賞味期限や穴があいたものを点検する作業の重要性を感じた」という感想がありました。寄せられた食品をただ渡すのではなく、その先の食品を受け取る相手を想うことが、フードバンクかながわの設立目的でもある「地域のたすけあい・支え合いを実現する」ことに通じていると感じました。（Volunch 1 年　室谷 今日子）

Voluncの活動

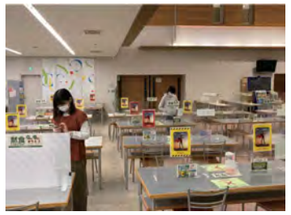
◆過剰除去啓発活動

ボラツアーとは

ボランティアに初めて参加する学生の不安をできる限り少なくするために、Volunch が一緒にボランティア活動に参加するプログラム。ボランティア活動の当日だけでなく、事前交流会・事後交流会を実施し、事前準備・振り返りといった一連のサポートを行うことで、ボランティア経験が少ない学生も安心してボランティア活動に取組んでもらえます。

実施日 /11 月 22 日（月）～ 12 月 13 日（月）
場　所 / 金沢八景キャンパス 学食、Volunch の Twitter 及び Instagram
参加者 /Volunch 6名

剰除去啓発活動では最終的にアンケートを取り、その中で「過剰除去についてさらに詳しくなった」「食品ロスにより興味を持った」という回答も得られ、少しでも効果があった ことが成果だと思います。私たち自身も、新たなレシピを探す過程で学びになりました。今回レシピは学食だけに貼ったのですが、ほかにも学生の目につくところに貼ればよかったです。今後も横市の学生に参加してもらい、食品ロスについて学べるボランティアを続けていきたいと思います。（Volunch 2 年　加藤 すみれ）



ヨコイチ学生起業家によるオンライン講演会 循環型社会を目指す学生起業家の挑戦

Voluncの活動

◆「株式会社 StockBase」関さん、菊原さんによる講演会

実施日 /6 月 4 日（金）
場　所 /Zoom
参加者 / 一般・学生 56 名、Volunch 4名

今回の講演会は、4 年生（現在休学中）の関芳実さんと菊原美里さんが、食の支援グループの活動に近い、フードサイクルを中心に「無駄をなくす」ことを目的とした会社を起業したことを受けて企画しました。もう一つは、自分たちと同じ学生が在学中に会社を立ち上げたことについて、興味・関心を持ったからです。

お二人が会社の事業内容や学生による起業、大学時代の過ごし方や一日のスケジュールまで丁寧に説明してくださったので、理解の深まるいい講演会になりました。（Volunch2 年　山谷 勇貴）